

「インクルーシブな学校運営モデル事業」カリ・マネ便り②

カリキュラム・マネージャー

○ 中高養Tがサブで「カルチベーション」の授業に参加

令和6年7月9日(火)、中高養の2名の先生が初任段階教員研修の一環で更農の学校設定科目「カルチベーション」の授業にSTとして参加しました。

授業の冒頭で生徒たちに先生方が紹介され、プリントなどを使って個別学習やグループ学習を行っている時に、進み具合の確認や助言を行いました。

授業終了後、生徒に「他校の先生が参加したこと」について感想を聞くと、「分からないところを教えてくださいましたので有り難いと思います。(1A女子)」

「抵抗感はありません。よいことだと思います。(1A男子)」「よいことだと思います。普段の授業と違って、変化があります。(1B女子)」とのことでした。

また、授業後の協議は「この教科は何をねらって設定されているのですか?」と学習指導の1丁目1番地の話から始まるなど、30分程度の協議でしたが非常に中身の濃いものでした。

両先生からは「生徒は落ち着いて授業を受け、グループワークでは会話が進み、仲のよさを感じた。」

「集中できなくなった生徒に、他の生徒が声を掛けていて、雰囲気の良いと感じた。」「多様な生徒がおり、更農の先生方の努力が想像できた。」「SSTは本校でも必要だと思う。」との感想をいただきました。

カルチベーション

第1学年全学科共通の必修科目。

授業内容は「認知のトレーニング(コグトレ)」「SST」「基礎学習」で構成されています。

更農の第1学年では、学科混合のホームルーム(2クラス)を編制しており、今回の授業はこの2クラスで実施されました。

モデル事業との関わり

「インクルーシブな学校運営モデル事業」の研究内容には「交流及び共同学習を発展させた新しい授業」と「現行の教員配置にこだわらない専門性を高めた授業実施のための体制構築」の2つがあります。

今回の授業は初任段階教員研修を活用し、後者の取組として実施されました。



右写真：国・数・英の基礎学習プリントが上から易しい順に入っており、自分に合ったものを選びます。

※この便りは更農、中高養の教職員の方々に向けて作成しています。